

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月11日(火)

《感謝の心 ~餅売りのおばあさんの話より~》

次の日曜日のミサでもう一度正式にあいさつするとは思いますが、堅信式のミサでは、皆様それぞれが本当に心をこめて一つになり、いろいろなことをなさってくださったことに感謝致します。多くの制限があり、限界を感じたところもあったでしょう。しかし、このような条件のある中でも可能な限りの最善を尽くせたと言えるのではないかと思います。本当にお疲れ様でした。

さあ、今日の第一朗読(使徒言行録 16・22 34)に入ります。この中で私たちがもう一回自分の胸に刻まなければならないのは、パウロの「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」という言葉です。この言葉には、皆様それぞれの解釈があると思います。しかし変わらない解釈は、「私たちの救いの基準は主イエス・キリストである」ということです。そのことをもう一回考えてみましょう。

さあ、福音(ヨハネ 16・5 11)に入ります。皆様が神様からいただいたものは、多いですか、少ないですか？多いのですね。人と比較をしてみても多いですか？では、皆様と比較された人は少ないのですね。(笑)とにかく、私たちが神様からいただいているものはたくさんありますよね。さあそれでは、私たちは、たくさんいただいたことにふさわしい反応を見せているでしょうか。振り返ってみましょう。

あるおばあさんの話をします。そのおばあさんは、毎朝早く、入れ物にたくさんの餅を入れて村へ行き、餅売りをしていました。おばあさんの売り方には不思議なところがありました。それは、同じ村には二日しか行かない、ということです。一つの村で二日餅を売ったら、翌日は必ず別の村へ行くのです。ある村では、一日目にすぐに餅が売り切れしました。翌朝は、おばあさんが行く前にみんなが待っていて、またすぐに餅はなくなりました。しかしおばあさんは、その翌日にはもうこの村へは行かずに、次の村へ行きます。そのようにいくつもの村を回っていて、ある村で二日目に餅を売っていた時のことです。1人の少年が来て、金貨を差し出しました。おばあさんが「この金貨の分の餅がほしいということかい？」と聞くと、少年は頭を振って「いいえ、そうではありません。昨日買った餅の中にこの金貨が入っていました。ぼくのものではないからおばあさんのものだろうと思って返しに来ました。」と答えました。

実は、このおばあさんはすごい金持ちでしたが、後継ぎがいなかったのです。そこで、後継ぎにふさわしい正直でまじめな人を捜すために、全ての餅に金貨を入れて、国中を売り歩いていました。しかし、餅に入っていた金貨を返しに来る正直な人は誰もいませんでした。たった一人この少年だけが、「これは自分のものではありません」と言って金貨を返しに来たのです。おばあさんは大喜びをして、その子どもの両親に会って話をし、その子を後継ぎにしたというお話です。

この話の中の餅を売る『おばあさん』が神様である、と考えてみてください。おばあさんが来たらすぐに餅を買おうとする『人々』が私たちです。そして、自分のものではないのに返そうとしない『人々』も私たちです。私たちは、たくさん神様からいただいていますよね。しかし、いただいているものに対していつも「これは当たり前なもの、当然なもの」と思ってしまいます。しかし、正しい信者、ふさわしい信者ならば、いただいたものを返そうとする心、それもただ返そうとするのではなくて、実らせて返そうとする心がなによりも必要ではないでしょうか。しかし、いただくのは当然だと思って感謝もせず、足りないことについてだけは文句を言い、人と比較をして「あの人はあんなに幸せなのに私は何だろう」と闇の子のように不満ばかり言っている人もたくさんいます。

この話を読んで、これは本当に私たちの生き方に似ているという気持ちがしました。私たちは、たった一つのをいただいただけでも感謝すべきなのに、普段の生活の中で感謝の賛歌がほとんど出てこないのは、どういうわけなのでしょう。これは、私たちがまだ本当の信仰の味を分かっていないからではないでしょうか。

皆様、私たちは返さなければならないのです。返そうとする心があれば、私たちは成熟します。いただくことを当然なことだと思わずに、「本当に感謝します。私のような者にこんな恵みを与えてくださって、どうすればよいか分かりません。」というような言い方、考え方が許されれば、私たちは今よりもっと幸せな生き方ができるのではないかと思います。

皆様、今日の福音は「イエス様が中心にならなければ、私たちは完全なものにはなれない」と言っています。イエス様と私たちの関係は、感謝から始めるものです。その感謝がなければ、喜びの生活もできません。希望の生活もできません。私たちは、どのようなときでも「感謝する心が許されるように」祈らなければならないと思ってみました。

ありがとうございました。